

犯罪被害者週間の取組について

犯罪被害者支援を考える県民の集い

参加者約250名

毎年11月25日から12月1日までの一週間は「犯罪被害者週間」として、犯罪被害者等が置かれている状況や犯罪被害者等の名誉または生活の平穏への配慮の重要性等について、国民の理解を深めることを目的として各種イベントを開催しています。

令和6年度は、「寄り添って周囲でつむぐ理解の輪」をテーマに沖縄県、沖縄県警察、(公社)沖縄被害者支援ゆいセンター、西原町の四者共催による「犯罪被害者支援を考える・県民の集い」を11月25日(月)、西原町のさわふじ未来ホールで開催しました。

講演は、2019年東京都池袋における交通死亡事故の御遺族松永拓也氏と上原義教氏二人を招いて行いました。

松永氏は、事故当時、住んでいた自治体に犯罪被害者や遺族を支援するための制度が無かったことから、市町村レベルでの犯罪被害者支援条例が必要と訴えていました。また、SNSで誹謗中傷された経緯も話し、多くの犯罪被害者を苦しめているため、中傷する側の使用を問題視するために訴えたこと等を話していました。

オープニングアクトで沖縄県警察音楽隊が沖縄音楽を演奏、第二部のアトラクションでは、世界一の実績を持つ西原高校のマーチングバンド部によるマーチング演奏で会場を和ませていました。

ロビーでは、犯罪被害者支援のパネルとメッセージ(生命のメッセージ)を展示して、広報啓発活動を実施しました。

ー イベント内容 ー

- 主催者代表あいさつ 沖縄県生活福祉部長
- ビデオメッセージ 内閣総理大臣
- 県の取組状況説明 沖縄県生活安全安心課
- 講演
東京都池袋における交通死亡事故御遺族
課題「交通事故と被害者支援」～ひとりじゃない～
松永拓也氏 上原義教氏
- アトラクション
西原高校マーチングバンド部によるマーチング演奏

参加者からは、

- 命の尊さを改めて感じた。日頃から周りの人の大事さと感謝を忘れずにしたい。
- 被害者支援の認知度がもっと広まって欲しいと思った。
- 被害者の声を聞いて、日々の何気ない言葉や態度が二次被害になったり、SNSでの誹謗中傷について全員で考えないといけないと感じた。
- SNSをきっかけに興味を持ち参加した。誰も被害者にも加害者にもなることのない社会実現のために自分自身でできることを考えてやっていきたい。

などの感想がありました。

今回は、犯罪被害者週間の初日、11月25日に加害者が亡くなったという報道があったことから、県外からも多数のマスコミが参加して、全国テレビニュース、全国紙にも取り上げられました。

